

認定書

国住指第 1490 号
平成 25 年 10 月 23 日

因幡電機産業株式会社
代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 45 分間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS045WL-0708

2. 認定をした構造方法等の名称

ケーブル・電線管／化粧材付熱膨張材合成ゴム混入無機質充てんシート・ポリプロピレン系繊維混入けい酸塩タルク充てん／壁準耐火構造／貫通部分

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

ケーブル・電線管／化粧材付熱膨張材合成ゴム混入無機質充てんシート・ポリプロピレン系繊維混入けい酸塩タルク充てん／壁準耐火構造／貫通部分

2. 申請仕様の寸法等：

申請仕様の寸法等を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法等

項 目		申 請 仕 様
開口部	形状	矩形 (65×150mm以下) 又は円形 (φ 65mm以下)
	面積	矩形の場合 0.00975m ² 以下 円形の場合 0.00332m ² 以下
占積率 (開口面積に対するケーブル・電線管の 断面積の総合計の割合)		矩形の場合 42.6%以下 円形の場合 55.9%以下
貫通する壁の構造等		建築基準法施行令第2条第七項の二の規定に基づく準耐火構造 (45分) 厚さ 74mm以上

3. 申請仕様の構成材料：

申請仕様の構成材料を表2に、配管・ケーブルの構成材料を表3に示す。

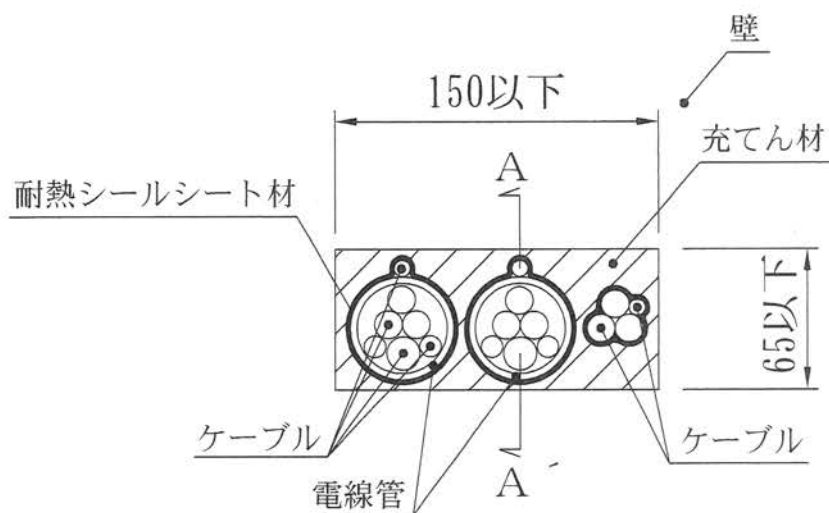
表2 申請仕様の構成材料

項 目		申 請 仕 様	
耐熱シート材	材料	化粧材付熱膨張材・合成ゴム混入無機質充てんシート	
	寸法	総厚：2(-0.2)mm以上 幅：50mm以上	
	設置箇所	ケーブル、電線管の周囲1周以上	
	外側張付材① (化粧材、充てん材接 触側)	材料	あり又はなし 種類：1)～3)の一 1) ポリオレフィン系繊維強化アルミニウム系テープ 2) アルミニウム系テープ 3) ガラス繊維強化アルミニウム系テープ
		厚さ	
	シート	材料	熱膨張材・合成ゴム混入無機質充てん材
		組成 (質量%)	
	外側張付材② (化粧材、ケーブル又 は電線管接触側)	材料	あり又はなし ポリオレフィン系フィルム
		厚さ	
	充てん材	材料	ポリプロピレン系繊維混入／けい酸塩・タルク板 (国土交通大臣認定不燃材料：NM-2755、タイプA)
かさ比重			
使用箇所 (使用量)		壁とケーブル・電線管との隙間 (壁の両側から片面あたり壁厚方向22mm以上密に充てん)	

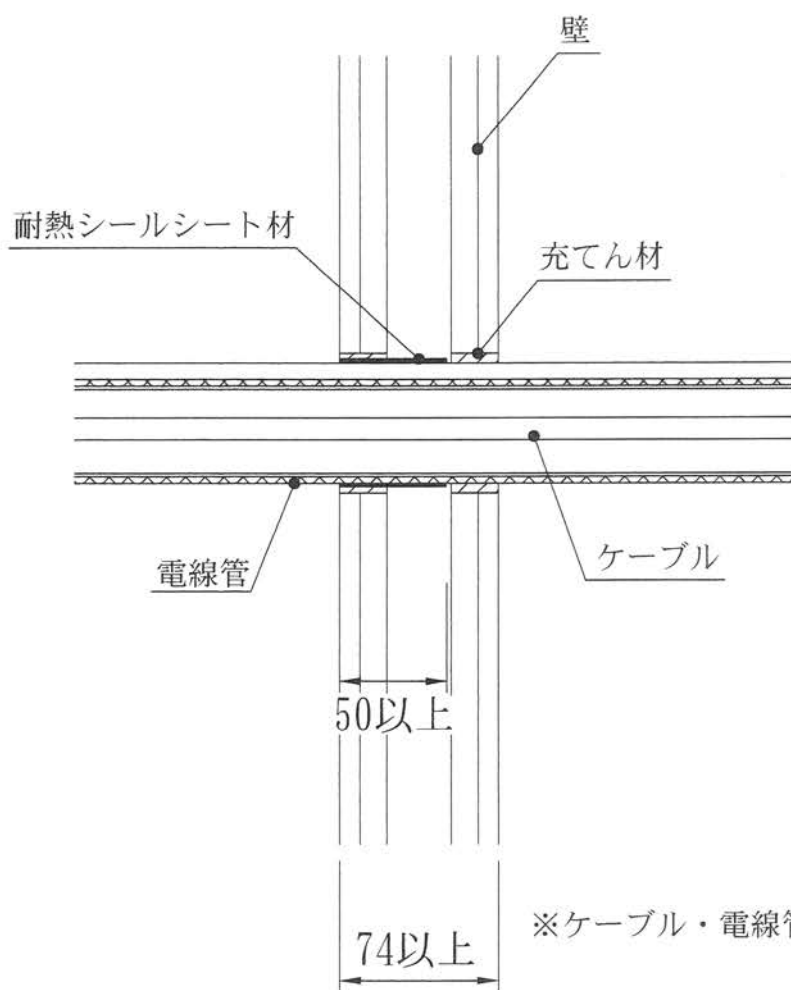
表3 申請仕様のケーブル・電線管の構成材料

項目	申請仕様			
ケーブル	導体(又は芯線)の断面積	1本あたり	38mm ² 以下	
		総合計	449.1mm ² 以下(銅等の金属類)	
	総有機量	1.63kg/m以下		
	導体(又は芯線)の種類	銅、ガラス繊維、その他これらに類する不燃性の材質		
	絶縁体	ポリエチレン系	厚さ	2.9mm以下
		塩化ビニル系		
		ゴム系		
介在(円形に調整する充てん材)	紙、ジュート、ポリプロピレン、又はなし			
シース	ポリエチレン系	厚さ	1.7mm以下	
	塩化ビニル系			
	ゴム系			
電線管	材料	合成樹脂製可とう電線管(JIS C 8411、CD管又はPF管)		
	外径	48.0mm以下(楕円さや管は長径が48.0mm以下)		

5. 申請仕様の構造説明図：
申請仕様の構造説明図を図1～図3に示す。

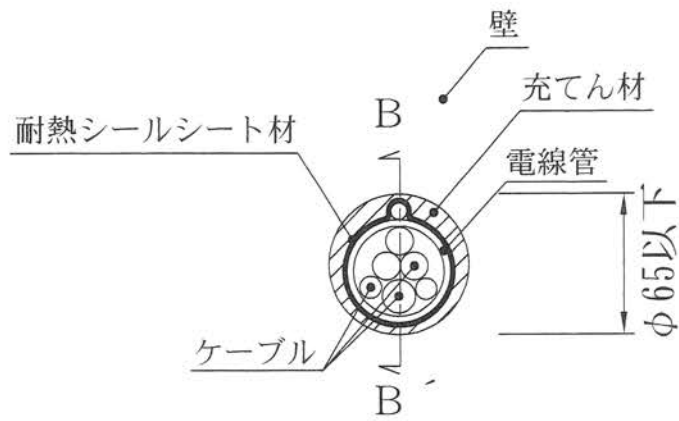


立面図

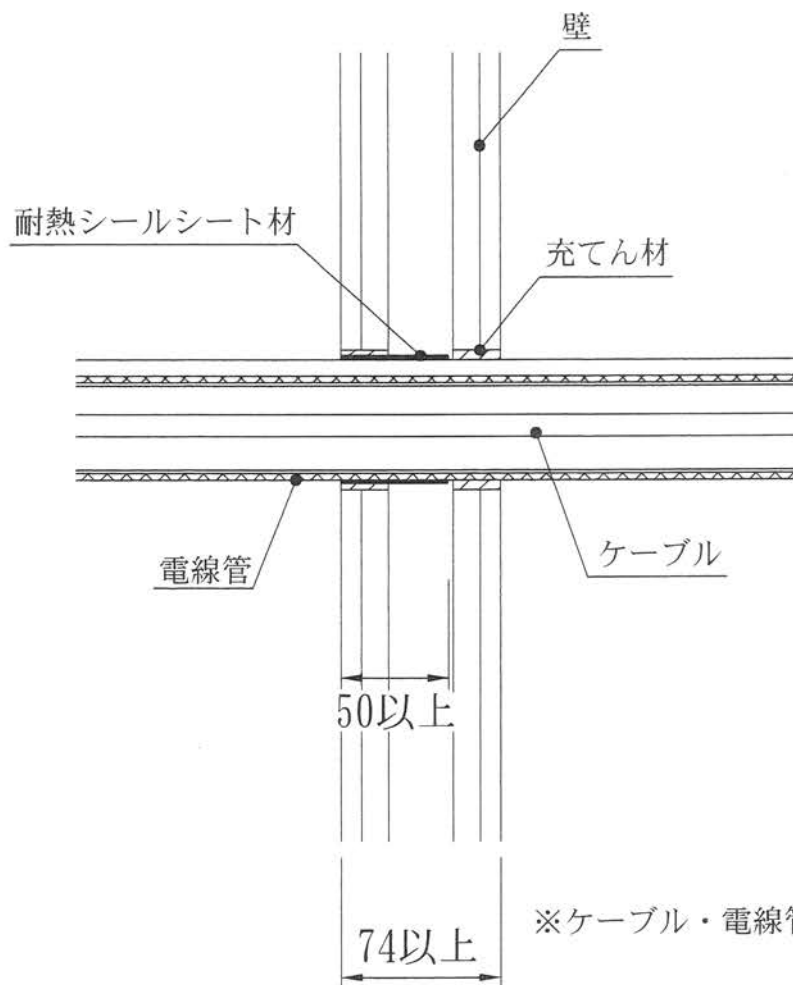


A-A 断面図

図1 構造説明図

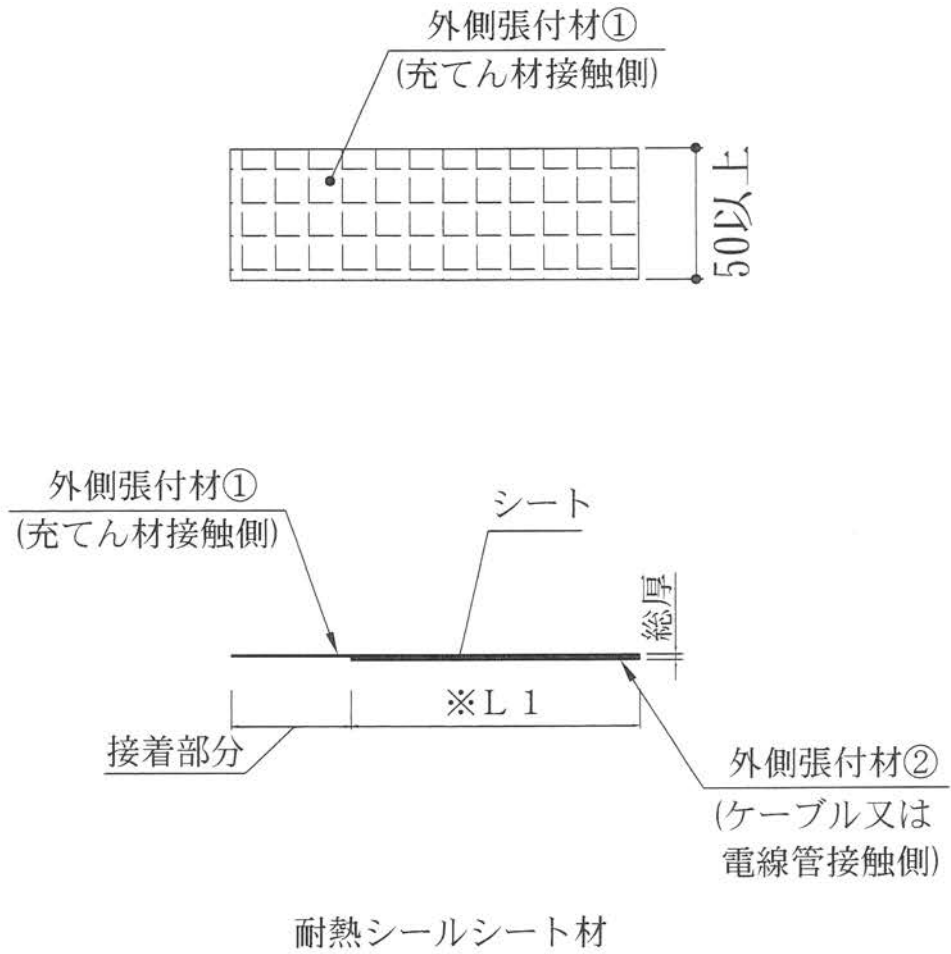


立面図



B-B 断面図

図2 構造説明図



※ケーブル又は電線管の周囲1周以上にあたる長さ

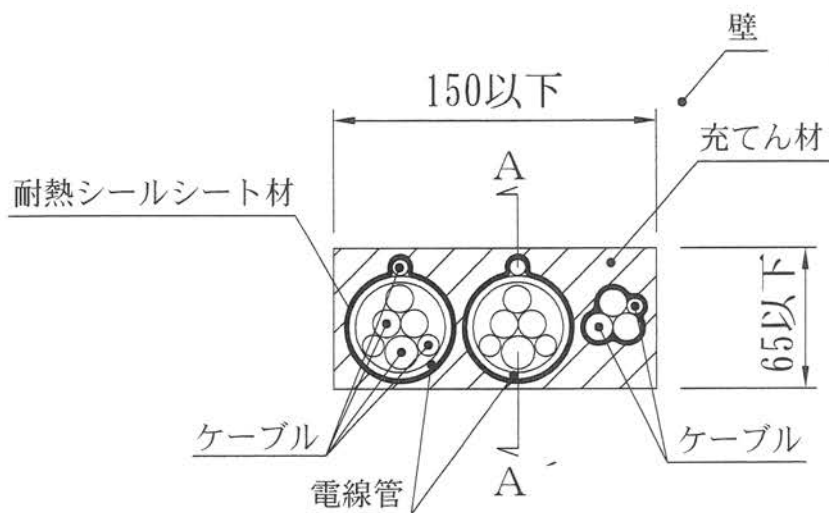
図3 構造説明図

6. 施工方法：

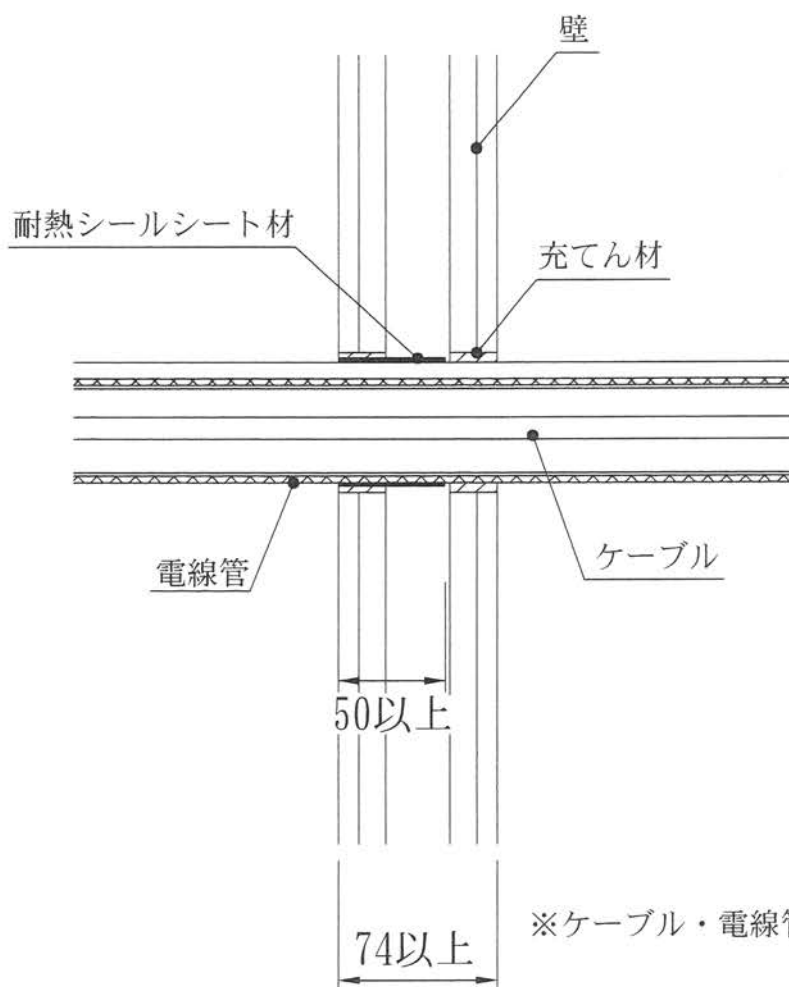
施工図を図4及び図5に示す。

施工は以下の手順で行う。

- (1) 貫通開口部の設定
使用ケーブル(又は電線管)のサイズ及び本数が占積率以下となるように最大開口サイズを考慮し、貫通開口部を設ける。
- (2) ケーブル・電線管の設置
ケーブル・電線管を設置し、支持・固定する。
- (3) 耐熱シールシート材の巻き付け
耐熱シールシート材をケーブル1系統に対して1周以上巻き付け、接着部分を張付けた後、固定する。ケーブルについては、電線管に対して外側に通し、とも巻きしてよい。また、電線管を使用しない直ケーブルの場合は束が大きくなるように1系統を作る。この時、耐熱シールシート材とケーブル等との間に隙間が発生しないように注意して巻き付けること。
- (4) 耐熱シールシート材のスライド
耐熱シールシート材をケーブル・電線管に沿わせて耐熱シールシート材の先端が壁面と同一面になるようにスライドさせる。
- (5) 埋め戻し
貫通開口部と耐熱シールシート材(とも巻きの場合はその箇所に発生した隙間に注意)の隙間に、壁両側面を所定の厚さ以上ずつ充てん材にて埋め戻しを行う。埋め戻し部に隙間が無いことを確認して仕上げる。

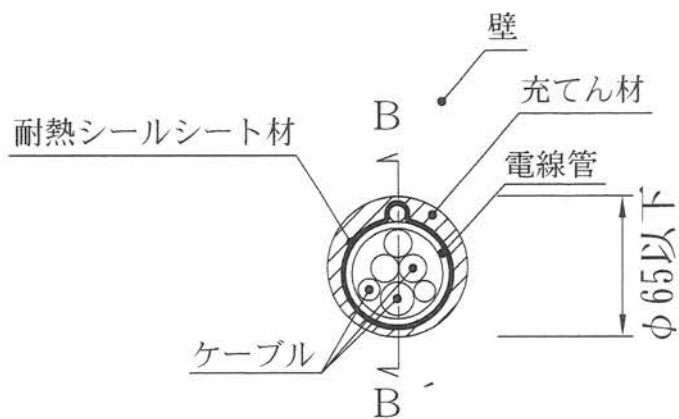


立面図

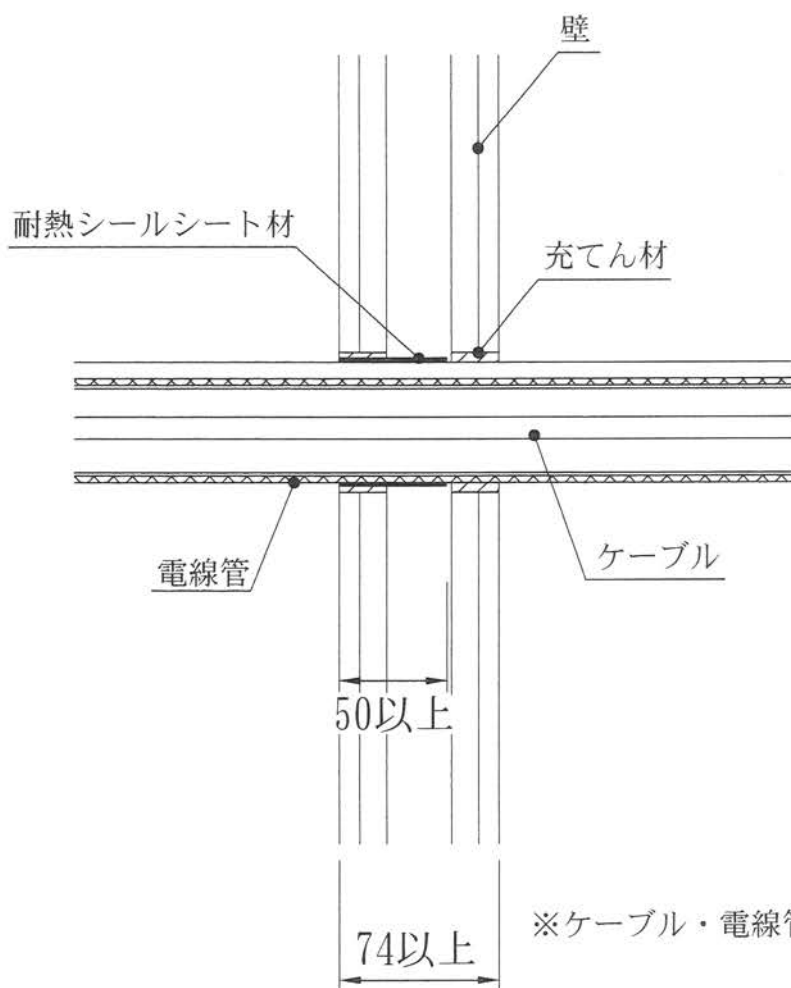


A-A 断面図

図4 施工図



立面図



B-B 断面図

図5 施工図